

中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事
中谷 兼武



衰えを見せない新型コロナウイルス禍が続いている先日、県の公安委員会から「認知機能検査通知書」が届いた。75歳以上の高齢者の免許更新には、認知機能検査と講習修了が必要との内容であった。

後期高齢者の仲間が集まると、よく高齢者の自動車事故の発生や運転免許証の自主返納等が話題になる。自主返納の多くは、交通事故を起こす可能性などの不安により、家

族や周りから強く返納を求められてのものであり、自らの意思での返納は少ないようである。そのためか、不便であることや行動範囲が狭まるなどの愚痴や後悔を、返納者から聞かされる事が多い。

内閣府の「高齢運転者の交通事故の状況」によれば、令和元年の免許人口10万人当たりの交通死亡事故発生率は、75歳以上が7件であり、75歳未満に比べて約2・3倍である。自動車の安全機能アップ、認知機能検査等の法令整備、安全ガードの設置等の事故対策により、発生率は平成

老化認め、矩を超えない判断を

高齢者の運転免許証更新と新型コロナ禍

26年頃に比較して約40%低減している。しかし、最近、逆走、操作ミス等による高齢者の死亡事故報道に接することが多く、その度に心が痛む。

高齢者仲間が、「認知機能検査の事前課題練習をしておかげで満点だった」と得意げに話したので、「予備学習なしで受けないと認知機能検査にならないのでは？」と反問したところ、「事前学習内容を覚えていないのは認知機能低下していない証拠だよ」と返されて、否定的でも返答に困ったことを思い出した。

改めて、認知機能検査通知書を確認すると、検査結果は「・低くなっている・少し低くなっている・心配ない」の3段階になっている。事故を起こせば自身が傷つくだけでなく、他人にも迷惑をかけることから、高齢による能力低下を自戒し、事前学習せず「心配ない」の結果以外では、潔く免許証を返納しようと決断した。

新型コロナウイルスのデルタ株は感染力が非常に強いうえに、緊急事態宣言が出ても人流は以前ほどには減らないことから、新規感染者の増加が続いている。ワクチン接種のおかげで、高齢者の感染や重症化は減少しているが、私は、感染予防のルール守り、他人に迷惑を掛けないことを念頭に置いて行動している。少しでも快適な生活を送るためには、老化を謙虚に認識し、矩(のり)を超えない判断が重要と思っている。